

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102336
法人名	医療法人ビハーラ
事業所名	グループホーム ルンビニー
所在地	松山市安城寺町5 3 0 番地 1
自己評価作成日	平成22年10月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>地域の方との交流の少しずつ増え、ルンビニーを理解してもらっているように思う。気づきをみんなで共有し支援に繋げている。生活の延長線という視点でターミナルケアを行っている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>家族会は、時には、レストランで開催することもあり、ご家族だけで話し合う時間を設けておられる。「運営推進会議への家族の参加」についても話し合ってもらい、ご家族が順番で出席する一年間の予定を決めていただいた。運営推進会議時、医師である法人代表者が講師で、認知症の勉強会も続けておられる。法人代表者は「認知症のことを子ども達にも理解してもらいたい」と、紙芝居「ぼくのおばあちゃん」を作成され、会議で紹介したり、地域の小学校に寄贈された。</p> <p>管理者は「若い人に認知症を理解してもらいたい」と認知症の人の思いを歌詞に込めて作詞され、プロのシンガーソングライターとコラボして「今から起きるキセキ」という題の歌のCDを、来年1月に全国販売する予定になっている。先駆けて、今年9月には着うた配信されている。</p> <p>入浴は個々の希望等も踏まえて、毎日入る方や2日に1回、3日に1回の方もおられる。利用者全員が夕食後に入浴することを希望するユニットもあり、職員の勤務体制も変えて支援されている。</p>
--

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム ルンビニー

(ユニット名) 2階

記入者(管理者)

氏名 五藤 恵

評価完了日

22年 10月 10日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価)</p> BS法を取り入れ職員全員の意見をとりまとめ、理念を作成し掲示している。ただし理念作成から4年が経ち、スタッフ全員で理念作りを行い、まず行動指針を打ち出した。理念を基本に、月目標を決め日々の生活に取り組んでいる。月間目標を立て、1ヶ月に1回行っているミーティング時にひとりずつ反省し、次の目標に繋げている。 <p>(外部評価)</p> 事業所は、理念の一つに「利用者個々の思いを汲み取り、生活を豊かにする」と掲げ、力を入れて取り組んでおられる。職員は、利用者一人ひとりの表情の変化等「気付き」を大切にされて、思いの把握に努め、介護計画の他に「夢プラン」も作成して「生活を豊かにする」ことに向けて実践されている。	事業所は、現在、職員個々に思い等を出し合いBS法でユニット毎に「行動指針」を決めておられ、近々、行動指針を踏まえて、事業所の理念を新たに作成することを予定されていた。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価)</p> 蓮の花を通して地域の方がルンビニーに足を運んでくださった。お祭りなどの地域の催し物に参加することが出来た。又、昨年に引き続き草刈りに参加した。昨年参加したことで班の方との関係が深まっているように感じた。お向かいの住人さんと行き来している。 <p>(外部評価)</p> 事業所には、習字・折り紙・マッサージ等のボランティアの方の訪問があり、現役の音楽の先生も来られてピアノ演奏をしてくださっている。事業所の「花火大会」開催時には、チラシを作りご近所の方にも配って案内され、盆踊りやカラオケ、屋台等を出して、地域の人やご家族、約40名程の参加があった。年末の餅つきには、近所の方やご家族も手伝ってくださっている。法人では、認知症を学ぶ「地域フォーラム」を定期的で開催されていて、7月のフォーラムでは、管理者も認知症についての事例を紹介された。系列グループホームと合同で出かけた「宮島日帰り旅行」には、近所の方も3名参加された。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価)</p> 看護学生・日赤の看護師の実習を受け入れている。運営推進会議では、認知症についての勉強会をし、認知症の正しい知識を得てもらっている。地域フォーラムを開催し地域の方にも認知症について知ってもらっている。紙芝居を作成したり、歌を作成し認知症の理解に力をいれている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーが地域との繋がりやきつかけ作りをして頂き、行事に参加出来ている。 メンバーに家族OBでありボランティアでもあるKさんに参加してもらい始め、良いアドバイスをいただいている。 他のグループホームの運営推進会議にも参加させてもらい地域との関わりを深める為の情報交換を行っている。</p> <p>(外部評価) 会議は、偶数月の第4月曜日、13時30分からと決めて開催されている。事業所の行事や取り組み、又、利用者の現状を報告して、ご意見をうかがうようにされている。8月の会議では「事業所だよりの誕生者のコーナーを年齢がわかるようにしたら良いと思う」と意見をいただき、次号から反映されていた。又、外部評価結果の説明をされたり、消防署の方へ出席いただき、防火対策の話し合いや避難方法の演習を行い、アドバイスをいただいた。会議時、医師である法人代表者が講師で、認知症の勉強会も続けておられる。又、法人代表者は「認知症のことを子ども達にも理解してもらいたい」と、紙芝居「ぼくのおばあちゃん」を作成され、会議で紹介したり、地域の小学校に管理者と利用者1名が出向き、寄贈された。会議に地区の班長が出席して下さるようになり、回覧板で事業所の行事案内を回して下さることになり、地域の方達と事業所のかかわりが広がってきている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 何でも相談しやすく、旅行に関する事も情報をいただき、実現することが出来た。 事業所が相談をすると真剣に関わっていただき、良い方向へ導いていただいた。</p> <p>(外部評価) 法人では、定期的に認知症を学ぶ「地域フォーラム」を開催されており、運営推進会議時には、地域包括支援センターの担当者の方の協力を得て、地域の方達にも参加いただけるよう呼び掛けていただいた。運営推進会議時には、市の担当者の方から事業所の「家族会」の工夫点について質問があり、管理者が多くのご家族に参加していただくために工夫されていることを説明された。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 法人内の研修を行い正しく理解することが出来た。又、スタッフ全員拘束しないケアに努めている。</p> <p>(外部評価) 日中は玄関に鍵をかけず、利用者は、自由に出入りされている。調査訪問時ご自分で外に出て、自由に庭を散歩されている様子が見られた。玄関にセンサーを付けておられ、職員は、チャイムの音と目配りで利用者を見守り、出入りを確認されていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待とはどういう事なのか?!というところから、法人内の勉強会を開催した。それによってスタッフが理解する事が出来、注意を払い防止に努めている。 月一度行っているカンファレンスでも言葉の暴力について意見交換を行い、日頃の言動の振り返り、何気なく使っている言葉でも暴力と思われる事への気付きがあり、意識しながらケアを行っている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 実際利用されている入居者がいるも、スタッフ全員理解していない。法人内の勉強会を開催することで分かったようではあるが、理解とまでは難しい。その時々で説明しながら理解に繋げたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時、解約時には、時間をかけて説明を行い、納得していただいている。不安や疑問に関してはその都度説明し理解していただいている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 自分の気持ちを表出できる利用者には外部へ表せる機会を設けるよう努力している。自分の思いを表出できない方に対しては、表情やしぐさから思いを汲み取るよう、努力している。 日頃からご家族との関わりを大切に人間関係作りを努めている。又、何でも言いやすい環境作りにも気を配っている。今回の家族会は、食事をしながら行った。少しお酒も入ったが、本音で話す機会となった。 (外部評価) ご家族の来訪時には、日々の介護記録を見ていただきながら、ご本人の普段の生活の様子を報告されている。ご家族への伝言事項はノートに記録して、職員で共有されている。管理者は、毎月、利用者個々の状況を手紙でご家族に知らせておられる。又、系列グループホームと合同で毎月「たより」を作成しておられ、行事や外出、日々の様子を写真も採り入れて伝えておられる。家族会は、時には、レストランで開催することもあり、ご家族だけで話し合う時間を設けておられる。「運営推進会議への家族の参加」についても話し合ってもらい、ご家族が順番で出席する一年間の予定を決めていただいた。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>常に柔軟な対応ができるよう勤務の調整に努めている。職員の意見は大切に反映出来るよう努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「事業所のミニ勉強会」では、職員が順番にテーマを決めて行っておられ、講師役を務めたり、「穴空き問題」を作ってテストに取り組みたりして、職員が「興味や関心を持って」勉強できるようにすすめておられる。「法人内合同研修」は、職員にアンケートを取り、年に4～5回行っておられる。テーマによっては、外部の講師を招いたり、ご家族も一緒に勉強されている。管理者は「若い人に認知症を理解してもらいたい」と認知症の人の思いを歌詞に込めて作詞され、プロのシンガーソングライターとコラボして「今から起きるキセキ」という題の歌のCDを、来年1月に全国販売する予定になっている。先駆けて、今年9月には着うた配信されている。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>代表者は、度々グループホーム訪れて、スタッフと関わりを大切に、常に働きやすい環境作りをしている。</p>	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職場内研修を2ヶ月に一度開催している。又、職場外研修においても参加する機会を設けている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>地域フォーラムを開催することでネットワークづくりとなっている。代表者のマジックショーを通して今までと違った交流となっている。運営推進会議に往き来することで交流が出来ている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>1階から2階居室変更された方が多く、1階の情報やご家族の要望等を聞き、良い関係が築けるよう努力している。入居者さんの中には自分の要望を伝えることが難しい方が少なくない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居に当たっての説明時にも、ご家族の悩みを受け止め、会話を大切にしている。 入居後の状態をご家族に報告し安心してもらっている。又、困っていることや要望を聞き入れ関係づくりを行っている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 初回面会時、ご家族の要望を聞き、本人の状況、状態を観察しながら対応している。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 色々な場面作りや触発を行い、共に支えあう関係づくりを行っている。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の日々の出来事などをご家族に伝え、ケアの方針を共有していただいている。 いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに気を配っている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 馴染みの方が、いつでも来ていただけるような雰囲気づくりに努めているが、認知症の進行により、ベッド上での生活の方に対する外出などは思うようにできていない。 お墓参りは、ご家族、スタッフ同行で行っている。	
			(外部評価) 他県に住む娘さんが絵手紙の個展を開くことになり、ご本人の「行きたい」という気持ちを職員がご家族に伝え、ご家族と出かけられた。会場では、新聞やテレビの取材を受けられたそうである。又、介護度が重度の利用者から「夫のお墓参りがしたい」という希望があり、職員がご本人の「夢プラン」計画に採り入れ、息子さんとも相談しながら時間をかけて準備されて、男性職員2名・女性職員1名が同行して、リクライニング車椅子を担いでお墓参りの希望を実現された。ご本人はたいへん喜ばれたようである。事業所の農園は、元利用者のご家族が毎日のように来られて管理をされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 居室で過ごしている方は、訪室し手を握ったり言葉をかけるなど関わりを持っている。又、キャストを利用し、フロアでのコミュニケーションも大切にしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も週2回、ボランティアとして色々な面で協力いただいている。入院時はお花を持ってご利用者と一緒にお見舞いに行っている。 契約終了後数ヶ月はお便りを送ったり行事参加の声はかけるも継続していない。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとりの希望を把握するのは、状態上困難であるが、その人の立場になって思いを汲み取る努力をしている。	
			(外部評価) 職員が日々の会話や表情の変化から汲み取った利用者の思いは、事業所独自の介護記録の様式の「利用者の訴え・様子」欄に記録して、対応した職員の気付きの書き込みには赤色で波線を引く等、個々の思いを職員が共有し、介護計画につなげられるよう工夫されていた。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 情報シート、本人の話の中での情報やご家族の話の中から、把握するよう努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の勤務者はもちろん把握しているが、休みのスタッフもその日の様子が把握できるよう記録、日誌、伝達事項に目を通してしている。いつもと違う変化にいち早く気付く事に注意している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) ご家族の意見、主治医の意見、スタッフ全員の意見を取り入れ、カンファレンスを行いケアプランを作成している。 3ヶ月に1回ケアプランの評価、見直しを行い、ご家族に報告している。その際要望等を伺っている。 入院などで状況に変化がある場合は、状態に応じたプランに変更している。変化の状態によっては、区分変更申請をし、要介護度も変わっている。</p> <p>(外部評価) 介護計画は、センター方式の5つの視点に沿って「立案シート」を作成し、職員で話し合い、利用者個々の担当者が作成されている。ご家族への説明や報告、要望等を聞き取ることは、個々の担当者が行っておられ「ご家族の思いをプランに活かしたい」との思いで取り組んでおられる。管理者は「今後は利用者が「感じること」についても「できる・できないをアセスメントして、さらに深く思いを汲み取りプランに活かしたい」と話しておられた。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) ケアプラン、ケアポイントを主とした個別記録の記入方法を実践している。 記録の内容は、本人の言葉が主となっている。又、スタッフのこえかけも「」で記入し、それをしてどのようなになったか分かりやすく、次につながる記録になっている。気になる点は赤の波線を引き、評価、次のプランに活かしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その人の状態やニーズに合わせて、必要なサービスを提供している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) リフレクソロジーなど、ボランティアという形での地域支援を利用し豊かな暮らしを楽しんでいただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 医師とご家族との話し合いにより、いつでも訪問診 療を受けたり、ご家族の希望で受診できるよう支援し ている。	
			(外部評価) ご本人ご家族の希望で、ほとんどの利用者は、母体医 療機関の往診を受けておられる。協力医療機関以外の かかりつけ医の受診は、ご家族が同行されている。歯 科は、訪問診療を利用されている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 介護職員の気付きを大切に、グループホーム内の 准看護師や医療連携の看護師と相談し、日常の健康管 理や医療活用の支援をしている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるよ うに、また、できるだけ早期に退院できるように、病 院関係者との情報交換や相談に努めている。また は、そうした場合に備えて病院関係者との関 係づくりを行っている。	(自己評価) 医師が中心となり、医療機関と連絡を取り合い 情報 交換し、その都度ご家族に連絡しながら早期退院に繋 がっている。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約を交わすとき重要事項説明書にターミナルの項目を 設け、できること、できないことなど明確にしている。 終末期になれば、ご家族、医師、フロア主任、管理者で話 し合い、方向性を決め、同意書を作成し、スタッフ全員で共 有している。状態が変わるたびに話し合いの場を設け、共有 している。	
			(外部評価) 現在、利用者全員のご家族が事業所での看取りを希望され ており、他の病院に入院しても、ご家族からは「最期はホーム で見てほしい」と希望があり、ホームに戻って最期を迎える利 用者が多いようだ。事業所で初めて看取り支援をされた利用 者の方が、入浴がお好きだったことがきっかけで、ご家族の 希望もお聞きしながら「湯灌」を行うことを始められた。管理者 は「看取りは生活の延長上にあるもの」との考えのもと支援に 取り組んでおられ、ご本人の思いを大切にして、終末期を迎 えた利用者もベッドを移動して、居間で皆と一緒に過ごす時 間を作ったり、他の利用者が声を掛けてくれたり、手を握って くれたりとふれ合いのある中で居られるような支援に努めてお られる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変時は、状態をDrに伝え指示を仰いでいる。 応急手当の講習を受けているも、全員では無いため再度講習を受けたい。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方々にも参加していただき、義務づけられている年2回の消防訓練以外にも自主的に緊急連絡装置を使った訓練を行っている。 運営推進会議に地域の消防隊員に参加していただき、火災についての勉強会を行うと共に避難方法の実技指導を受けた。	
			(外部評価) 今春、夜間を想定した避難訓練を行われており、地域の方にも参加していただき、事業所の建物の構造や利用者の状態を知っていただいた。又、職員は訓練後の検討会で、職員から「避難した利用者が分かるように、避難誘導時に居室の名札を外してはどうか」等の意見も出された。又、運営推進会議に消防署の方に出席していただき、職員一人で利用者をベッドから降ろす方法や玄関まで避難させる方法を指導していただき、早速試してみられたようだ。近所の方達も含めた「緊急連絡網」を作成されており、運営推進会議時には、地域の方のお宅で火災があった際にはホームも協力することを話された。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) カンファレンスや勉強会などを通じて、人生の先輩として心に置き、その方の生活歴に応じた言葉かけを心掛けている トイレ誘導時にカーテンをきちんと引くように努めている。	
			(外部評価) 管理者は、利用者を「ちゃん付け」で呼ばないこと、トイレへの声かけは、耳元で行うこと等を職員に話しておられる。利用者の中には、これまでの馴染みの呼ばれ方等のことを踏まえて、ご家族とも相談をして「おばちゃん」と呼ぶようにされている方もいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 意思表示できるような声かけをしたり、拒否がある時は、少し時間をあけて別のスタッフに代わってみるなど、本人の意志を確認してから行動するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) できる限りご利用者の訴えに答えるよう努力している。 十分に意志を伝えられない方に関しては、表情や状況を見て思いをくみとって支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 殆どの方はスタッフが衣類を選んでいるのが現状である。 カットは1,2ヶ月に1回、訪問してもらいカットしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 一時期、食事介助に視点を置いていたため、スタッフと別々に食事を摂っていたが、一緒に食べることの大切さを話し合いの中で気づき、現在は介助しながら一緒に食事を楽しんでいる。	
			(外部評価) 献立は、利用者の希望を採り入れて、調理専門の職員が立てて、食事作りをされている。毎食、汁物を付けて、バナナやヨーグルトを採り入れて便秘予防にも気を付けておられる。 利用者は、職員と一緒に野菜の皮むき等の下ごしらえや盛り付け、配膳、下膳、食器洗い等をされている。さらに、事業所は月に数回「みんなで料理」する日を作って、うどんは粉から、ぎょうざは皮作りから、職員と利用者が一緒に楽しまれている。100歳を超える利用者も、包丁で野菜を切ったり、又、パン生地を丸めたり、盛り付け等をして下さっている。敬老の日は、寿司職人を招き、ご家族も一緒に食事され、利用者は「このお寿司は、本物じゃわい」と喜ばれたようである。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 必要な人はチェック表を使用し、確実に1日1200CC前後摂取できるようにしている。 栄養不足の人には、捕食で補っている。食べる量は体重増減などを考慮しながら、個々の食事形態を提供している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとりの状態にあった口腔ケアを毎食後日課として実施出来ている。 状態に応じて、歯科医や歯科衛生士の指導を受け実践している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 本人の状態や訴えにより、トイレ誘導を行いトイレ誘導表を作り、排泄パターンを把握している。 夜間失禁の量が多い方に対して、排泄の状態を細かく記録に残し、失禁の原因について泌尿器科のDrや主治医を交え話し合った。	
			(外部評価) 利用者個々の排泄パターンに沿ってトイレ誘導を行い、紙パンツから布パンツにパット併用、布パンツのみへと順次の移行を目指して支援をされている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 腹部マッサージ、体操などを行い、腸の動きを活発にすることを心掛け、食物繊維を多く摂取するよう心掛けている。	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介護度が高く、身体状態も不安定であるため、人数が多く急変があっても即対応できるように、日中入浴を行っている。しかし、もう一度話し合い、個々に対応出来るように繋げたい。	
			(外部評価) 入浴は個々の希望等も踏まえて、毎日入る方や2日に1回、3日に1回の方もおられる。利用者全員が夕食後に入浴することを希望するユニットもあり、職員の勤務体制も変えて支援されている。介護度が重度の方が多いユニットは、職員2名でネットを使用してご本人が浴槽で温まることできるよう支援をされたり、ストレッチャーを使用されることもある。入浴を嫌がる利用者には、声かけ等を工夫されている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) できる限り一人ひとりの生活習慣や状態に合わせて、休んでいただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりが使用している薬の名前、目的、副作用などが理解できるように、書類を作っているが把握できていないように思われる。 服薬ミスがないように、確認できるルートづくりを行っている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) フロアで過ごす事が殆どではあるが、役割、楽しみ事を見つけ、場面作りや、外出などで気分転換を図っている。 昔好きだったCDをかけている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 本人の希望をくみ取り、お墓参りに出かけたがりいちご狩り、ドライブ、買い物に出かけている。 (外部評価) お好きな時に近くのコンビニに出かけて、好みのお菓子や雑誌を購入されている利用者もあり、コンビニの店員の方もご本人のことをよく知ってくださっており、連絡をくださることもある。調査訪問日には、3名の利用者の方が近くの系列サービスで日本舞踊を見て楽しんで帰って来られた。敷地内にある事業所の農園で野菜の収穫をされたり、利用者の希望に沿って、季節のお花を見に出かけたり、芝居の見物や外食、喫茶店でお茶を楽しんだり、洋服の買い物等に出かけておられる。	さらに、日頃外に出にくいような状態にある方でも、体調や気候等も見ながら、外気に触れるような機会を作ってはどうか。
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金を持つことの大切さを理解しているも、本人の希望、や力がその状態にない。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) ご家族からの電話を取り次ぐも声にならず会話になっていない。しかし ご家族の話している事に関して理解出来、表情から嬉しさが伝わってくるため、今後も継続していきたい。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居者の使い慣れた物を居室に置いている。ご家族の写真を貼ったり思い出の写真を貼ったりと心地よい空間作りを心掛けている。 音に敏感な方がいらっしゃるため注意している。	
			(外部評価) 居間のテレビの前や壁際、廊下にソファが設置されており、調査訪問時にも個々でお好きな場所に腰掛けて過ごしておられた。居間の壁には、利用者の娘さんから届いた絵手紙の数々を配したすだれや、帯をアレンジしたタペストリーが飾られていた。事業所開設以来の写真をアルバムにまとめておられ、廊下の書棚に立ててあり、側のソファに座って自由に見る事ができるようになっている。加湿器を廊下に置き、湿度管理もされていた。居間の窓は大きく造ってあり、外の田園風景で季節の移り変わりを感じることができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 利用者同士で寄り添って会話したり、好きなテレビを観たり、足浴したりと、その時に応じた場面作りを行っている。	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの物を居室に置いているが、ご利用者にとって、居心地が良いのかどうか分からない。スタッフの都合似合わせて配置している方が少なくないのが現状である。	
			(外部評価) お菓子の包装紙で作った色鮮やかな折紙作品や、美人芸人の切り抜きを貼っておられる利用者もあつた。テレビや使い慣れた椅子を持ち込まれている利用者もいる。調査訪問時は、各居室の出窓に布団を干しておられ、窓の外側には、日よけ用すだれを掛けている居室もあつた。	管理者は、介護度が重度の方の居室はベッドを動かしたりと「職員の動きやすさを考えた居室環境になりがち」と話しておられた。事業所自身が気付かれたことをきっかけにして、この機会に利用者の立場に立って「利用者ご本人が居心地よく過ごせる居室環境」について点検したり、話し合ってみてはどうだろうか。
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 事故や怪我のないよう注意、見守りを行っている。トイレの手すり、浴室の手すり、滑り止めなど安全面に注意を払っているが、今後、自立支援に向けて工夫が必要と思われる。	